

海外経済

		2016年1月	2016年2月
世界経済		<p>世界の景気は、<u>アジア新興国等において弱さがみられるものの</u>、全体としては<u>緩やかに回復している</u>。 先行きについては、<u>緩やかな回復が続くことが期待される</u>。ただし、<u>アメリカの金融政策正常化の影響</u>、<u>中国を始めアジア新興国等の経済の先行き</u>、<u>原油価格等の下落の影響</u>、<u>地政学的リスク等</u>について留意する必要がある。</p>	<p>世界の景気は、<u>弱さがみられるものの</u>、全体としては<u>緩やかに回復している</u>。 先行きについては、<u>緩やかな回復が続くことが期待される</u>。ただし、<u>アメリカの金融政策正常化の影響</u>、<u>中国を始めアジア新興国等の経済の先行き</u>、<u>原油価格等の下落の影響</u>、<u>金融資本市場の変動の影響等</u>について留意する必要がある。</p>
アメリカ		<p>アメリカでは、<u>景気は回復が続いている</u>。 先行きについては、<u>回復が続くと見込まれる</u>。ただし、<u>金融政策正常化の影響</u>、<u>原油価格下落の影響</u>、<u>ドル高の影響等</u>に留意する必要がある。</p>	<p>アメリカでは、<u>企業部門の一部に弱めの動きもみられるが</u>、<u>景気は回復が続いている</u>。 先行きについては、<u>回復が続くと見込まれる</u>。ただし、<u>金融政策正常化の影響</u>、<u>原油価格下落の影響</u>、<u>ドル高の影響等</u>に留意する必要がある。</p>
アジア地域	中国	<p>中国では、<u>景気は緩やかに減速している</u>。 先行きについては、<u>各種政策効果もあり、安定的な成長は維持されるものと見込まれる</u>。ただし、<u>不動産価格や金融市場の動向等</u>によっては、<u>景気が下振れするリスクがある</u>。</p>	(変更なし)
	その他アジア	<p>韓国では、<u>景気は内需を中心にこのところ持ち直しの動きがみられる</u>。台湾では、<u>景気は弱い動きとなっている</u>。インドネシアでは、<u>景気は内需を中心にこのところ持ち直しの動きがみられる</u>。タイでは、<u>景気は減速している</u>。インドでは、<u>景気は内需を中心に緩やかに回復している</u>。</p>	<p>韓国では、<u>景気は内需を中心に持ち直しの動きがみられる</u>。台湾では、<u>景気は弱い動きとなっている</u>。インドネシアでは、<u>景気は内需を中心に持ち直しの動きがみられる</u>。タイでは、<u>景気は内需を中心にこのところ持ち直しの動きがみられる</u>。インドでは、<u>景気は内需を中心に緩やかに回復している</u>。</p>
ヨーロッパ地域	ユーロ圏	<p>ユーロ圏では、<u>景気は緩やかに回復している</u>。ドイツでは、<u>一部に弱い動きもみられるものの</u>、<u>景気は緩やかに回復している</u>。先行きについては、<u>緩やかな回復が続くことが期待される</u>。ただし、<u>失業率や物価の動向</u>、<u>地政学的リスクの影響等</u>に留意する必要がある。</p>	<p>ユーロ圏では、<u>企業部門の一部に弱めの動きもみられるが</u>、<u>景気は緩やかに回復している</u>。ドイツでは、<u>企業部門の一部に弱めの動きもみられるが</u>、<u>景気は緩やかに回復している</u>。先行きについては、<u>緩やかな回復が続くことが期待される</u>。ただし、<u>失業率や物価の動向</u>、<u>地政学的リスクの影響等</u>に留意する必要がある。</p>
	英国	<p>英国では、<u>景気は回復している</u>。先行きについては、<u>回復が続くと見込まれる</u>。</p>	(変更なし)